

## 第2章 計画の理念・目標・取り組み

### 1 基本目標が導き出された経過

平成16年度に各連合自治会単位で2回ずつ開催した地区別意見交換会、並びに分野別・団体別グループインタビューで出された生活課題や解決策の中から、高齢者、障がい者、子育てなどの対象を横断する共通課題を抽出し、新たなテーマに分類しなおしました。

その結果、「つながり」「人材・担い手」「機会・場」「情報」「安心・安全・健康」の5つのテーマが浮上してきました。

その5つのテーマについて、策定委員会の中で、テーマ別作業班にわかれ、検討を重ねてきた結果、テーマに添った5つの基本目標が導き出されました。

**基本目標1：地域での「つながり」を大切にするまちづくり（つながり）**

**基本目標2：「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり（人材・担い手）**

**基本目標3：みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり（機会・場）**

**基本目標4：必要な「情報」が入手しやすいまちづくり（情報）**

**基本目標5：「安心・安全・健康」のまちづくり（安心・安全・健康）**

さらに、基本目標ごとに小目標を定め、具体的にどのように取り組んでいくのかを検討してきました。具体的な取り組みには、区民、団体、事業者、社会福祉協議会、区役所など地域を支える人材が協働して、より実現性の高いものにするために、役割分担を明確にしました。具体的な取り組みは、区全体で取り組むべきものから各地区で取り組むべきもの、区民個人個人が取り組むべきものとして、様々なレベルでの具体的な取り組みを網羅しています。



第1回 策定委員会の様子

## 2 計画の基本理念と基本目標

### (1) 基本理念

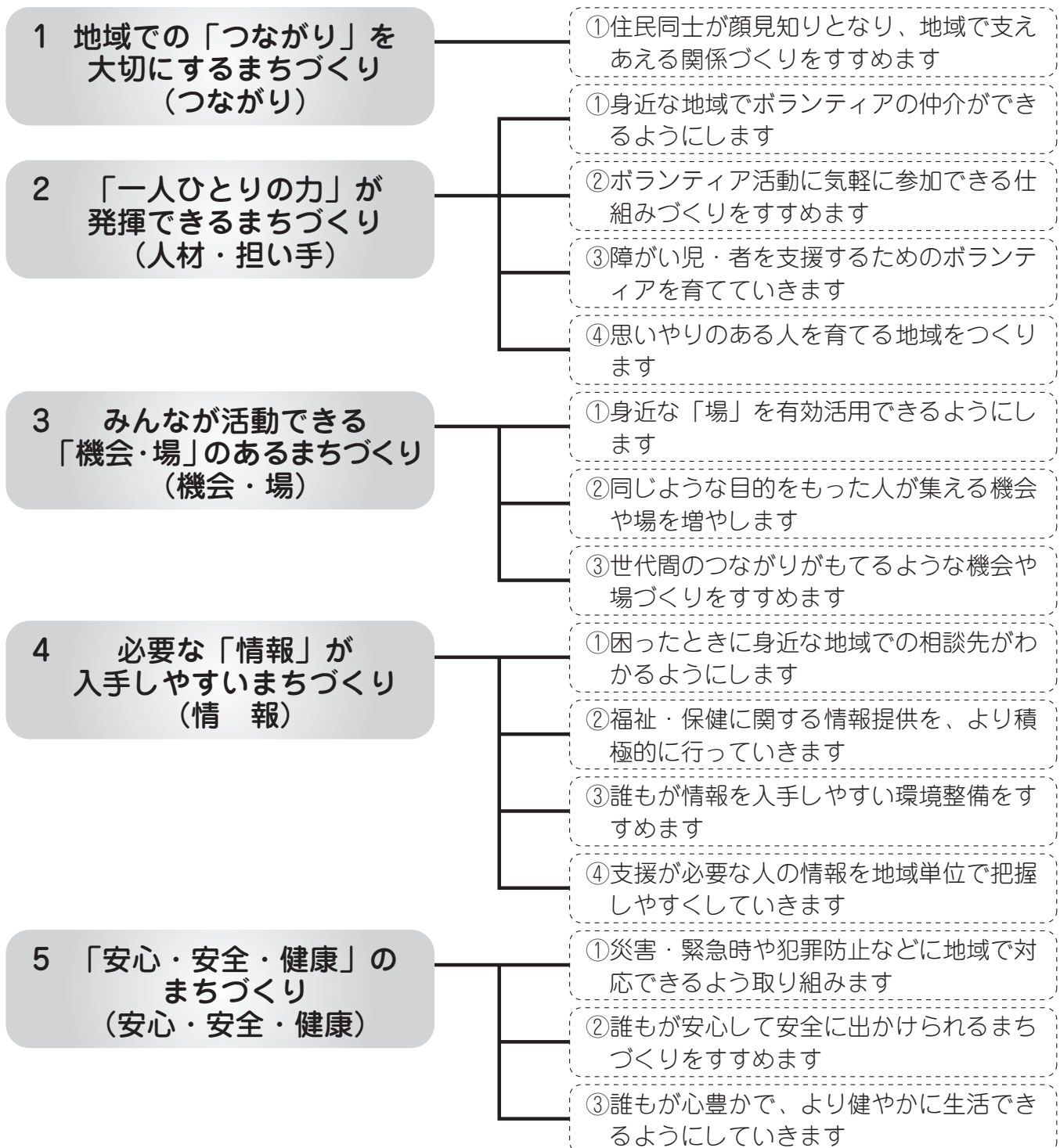
『誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして』

～ 一人ひとりが主役・共に支えあうまちづくり ～

### (2) 基本目標・小目標

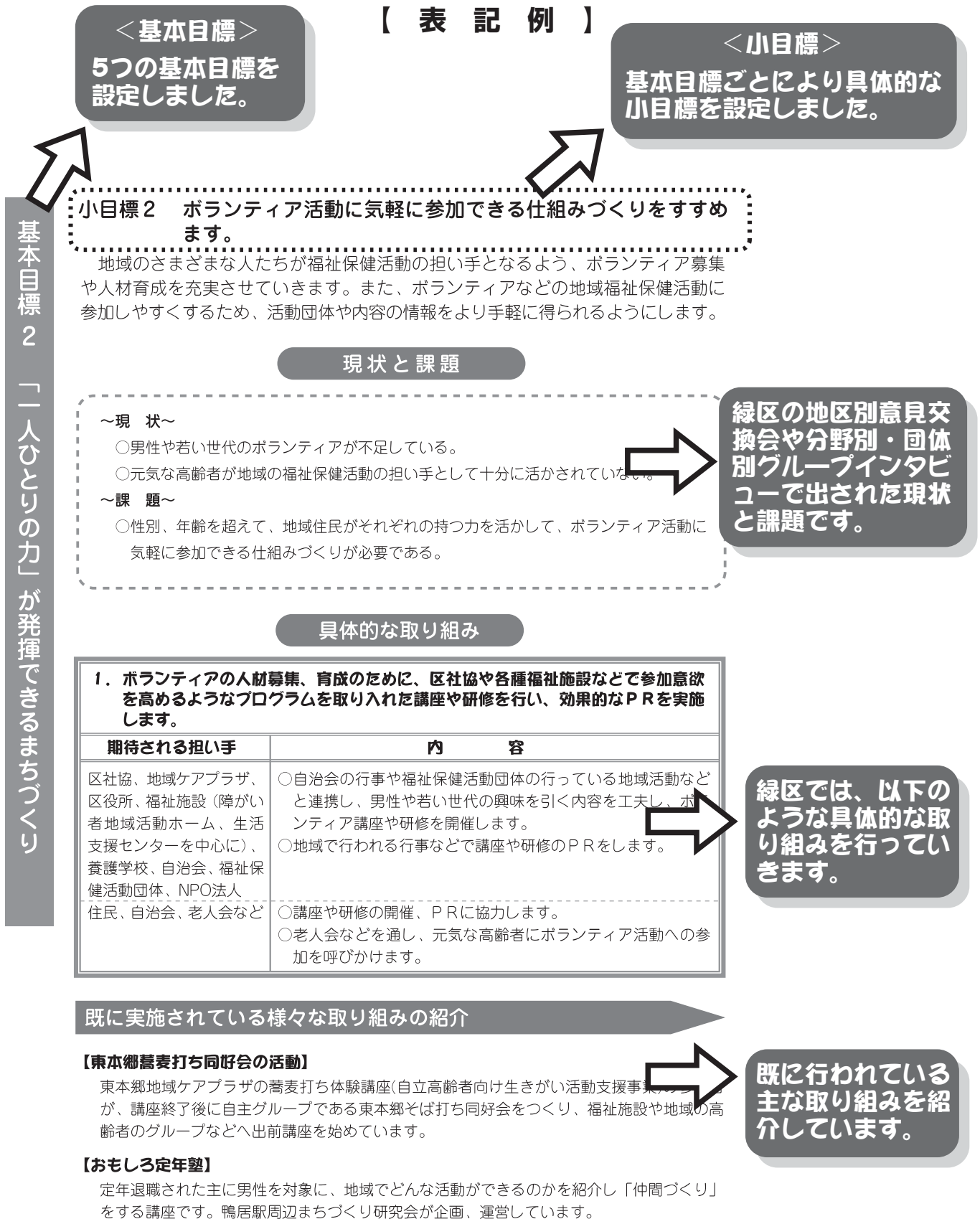
#### <基本目標>

#### <小目標>



### 3 基本目標別の課題と取り組み

ここでは、基本目標、小目標ごとに「現状・課題」、「具体的な取り組み」、「既に行われている取り組み」などをまとめています。そのなかで、住民、社協、行政などが取り組むべき方向性を示し、具体的な実践例を紹介しています。



## 小目標 1 住民同士が顔見知りとなり、地域で支えあえる関係づくりをすすめます。

住民同士が積極的にあいさつや声かけを行ったり、自治会を中心とした地域の活動に参加することにより、子どもから大人まで地域の誰もが顔見知りとなり、つながりを持ち、支えあえる関係になるよう努めていきます。

### 現状と課題

#### ～現状～

- 住民同士がお互いあいさつをする関係が減ってきている。
- 人と人とのつながりが希薄で近所との付き合いが少ない。
- 身近なふれあいの機会が少なくなった。（井戸端会議など）
- 青少年に注意しにくい。声が掛けづらい。
- 小さい頃から近所の大人とのつながりがうすい。
- 小学生は子ども会等で関わりがあるが、中高生などは地域との関わりが持ちにくい。
- 自治会などの加入者が少なくなっている。住民が知り合える機会が少ない。
- マンションでは自治会を組織していないところもある。

#### ～課題～

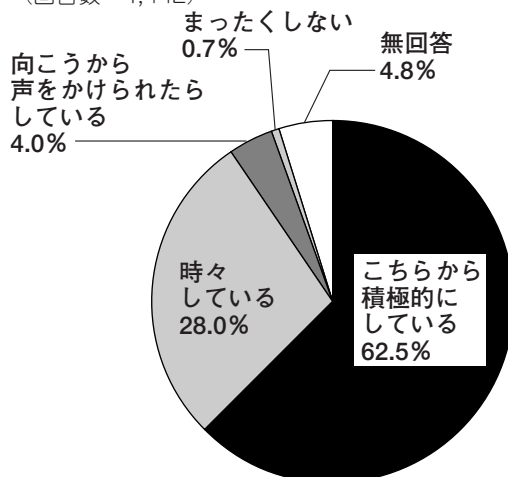
- 向こう3軒両隣といった近隣住民とのあいさつをする関係やふれあう機会を増やし、支えあい活動をより活発にする必要がある。

### <区民アンケート調査結果>

近所でのあいさつや声かけを半数以上が積極的にしている反面、半数以上が地域での助け合いの経験をしたことがないという状況となっています。今後はあいさつや声かけをきっかけとして、地域での助け合いや協力につなげていくことが大切です。

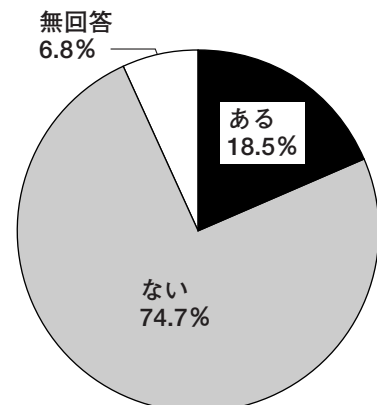
Q 近所の人にあいさつや声かけをしていますか？

(回答数=1,442)



Q 話し相手や困りごとの手伝いなど、地域での助け合いを個人的にしたり、されたりしたことがありますか？

(回答数=1,442)



## 具体的な取り組み

### 1. 住民同士がつながりを持つきっかけとして、あいさつや声かけが自然にできる関係づくりをすすめていきます。

期待される担い手	内 容
住民	○積極的にあいさつし、顔見知りになるよう心がけます。特に次代を担う子どもへの声かけを行います。
自治会など	○ポスターやキャンペーンなどで、あいさつ運動や声かけの大切さを呼びかけていきます。
PTA、地域活動団体など	○老人会や子ども会などに呼びかけ、子どもの登下校時のあいさつ・声かけ運動を実施します。
区役所	○団体活動であいさつ・声かけを積極的に行います。 ○地域であいさつが活発に行われるよう支援します。 ○区役所窓口での職員のあいさつ・声かけを徹底します。
学校	○地域での事業実施時に、積極的にあいさつを行います。 ○小学校・中学校の入学式など、親と子の一緒にいる場で、あいさつの大切さについて、話をする機会をつくっていきます。 ○あいさつや声かけを啓発するためのチラシなどを作成します。

### 2. 自治会や地区社協などの地域活動への参加促進に取り組みます。

期待される担い手	内 容
自治会 地区社協 地域活動団体	○自治会広報や地区社協だよりなどで、それぞれの団体の活動を積極的にPRしていきます。 ○マンションなどで自治会に入っていないところがあれば、自治会に入るよう呼びかけていきます。 ○それぞれの団体の受入れ窓口を明確にしていきます。 ○自治会などでは、住民活動の重要性と加入のメリットをわかりやすく説明していきます。
区役所	○住民活動の向上の支援方法について検討します。 例えば、区役所で転入手続き時など、さまざまな機会を通じて各地区の自治会や団体の案内・広報をしていきます。

## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

### 【鴨居第4地区自治会 あいさつ運動】

円滑なコミュニケーションづくり、防犯対策を目的に、自治会をあげて「あいさつ運動」を展開しています。鴨居小学校の児童の皆さんが作成したポスターを、各家庭の協力で掲示するなどして、あいさつ運動に取り組んでいます。

### 【学校登校時の旗持ち活動】

地区によっては、年間を通じて小学校登校時に、横断歩道など危険な箇所に保護者などが旗を持って立ち、声かけ・見守りをしています。

小目標 1 身近な地域でボランティアの仲介ができるようにします。

区内の身近な地域に、ボランティアをしたい人や受けたい人が相談できる場や機会を増やしていきます。あわせて、ボランティアをしたい人と受けたい人の希望を取り持つコーディネーター（仲介者）を育てていきます。

現状と課題

～現状～

- ボランティアの希望などについて身近に相談できる場が少ない。
- ボランティアをしたい人や受けたい人の調整がうまくできていない。
- 区社協のボランティア相談コーナーにおけるコーディネーターの知識や経験が、地域に還元されていない。
- 困っていても、他の人に頼ろうとしない人、また援助を誰に求めてよいか分からない人がいる。
- 誰かの役に立ちたいと思っても、誰にどのような事をすればよいのかわからない。

～課題～

- ボランティアのコーディネートを行い、人材を活かす仕組みづくりが必要である。

<区民アンケート調査結果>

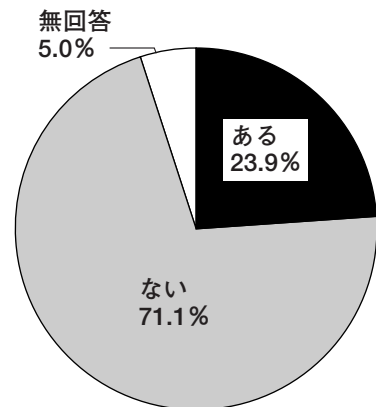
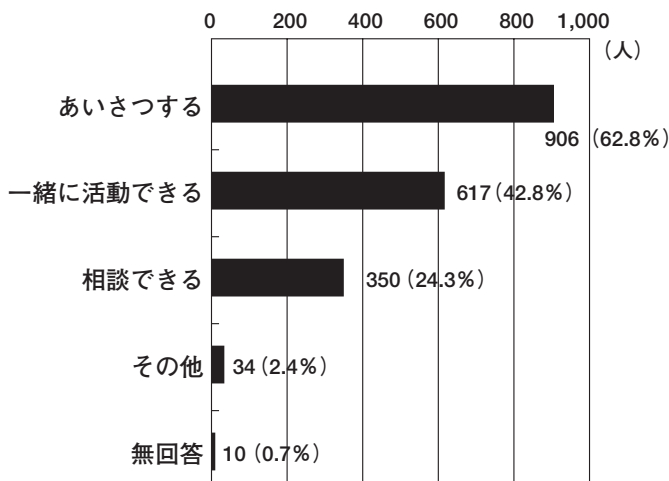
地域でのかかわり方の希望は「あいさつをする程度」が最も多いですが、「一緒に活動できる」、「相談できる」と積極性の高いかかわり方を望む人も50%近くいます。一方、地域活動やボランティア活動の参加状況をみると、7割以上の方が参加経験がないという実態となっています。今後は地域活動への参加を希望する人が、気軽に活動に参加できる仕組みづくりが必要です。

Q 今後、地域の方々（子どもも含めて）とどの程度かかわりたいですか？

(回答数=1,442) 複数回答

Q 地域活動やボランティア活動にこの1年に1度でも参加したことがありますか？

(回答数=1,442)



## 具体的な取り組み

### 1. 身近な地域に、ボランティア関係の相談ができる人を育て、ボランティアをしたい人、受けたい人の相談と調整ができる仕組みをつくります。

期待される担い手	内 容
自治会、地区社協、福祉保健活動団体、住民など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要な援助の内容・援助できる内容を個人情報保護に配慮してリスト化します。実施の際はモデル地区を設定し、地区社協や福祉団体が相談役となり、コーディネート（仲介）を行います。</li> <li>○地域の相談先について回覧板、掲示板などで広報します。</li> <li>○自治会館など相談の場として利用できる場所を提供します。</li> </ul>
地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の相談窓口となります。</li> <li>○必要に応じて区社協（ボランティア相談コーナー）とのコーディネートを行います。</li> </ul>
区社協（ボランティア相談コーナー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア情報の提供や地域の相談者では対応しきれない相談に対応します。</li> <li>○多くのボランティア活動希望者を受け入れられるよう、申し込みを有効に活かせる方法を検討します。</li> </ul>

### 2. 区社協（ボランティア相談コーナー）で培ったコーディネートの知識や経験を用いて、新たなコーディネーターの育成を行います。

期待される担い手	内 容
区社協（ボランティア相談コーナー）地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアコーディネーターの知識や経験を整理し、コーディネーターの育成研修会を開催します。</li> </ul>
民生委員・児童委員、自治会、地区社協など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアコーディネーターの研修を受け、コーディネーターとしての知識や経験を学びます。</li> <li>○取得した知識や技術を活かし、地域での身近な相談窓口となります。</li> </ul>

## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

### 【ボランティアセンターを地区社協が運営】

東本郷地区社協では、月曜日から金曜日の週5日間、ボランティアがローテーションで送迎、家事援助のコーディネートを行っています。

### 【緑区外での取り組み】

#### 【港南区「福祉ネットワーク」】

地区社会福祉協議会が主体となり、住民相互の助け合いをボランティアで行っています。各地区社協に専門の相談員をおき、携帯電話を利用した相談の受付けを行っており、高い評価を得ています。

#### 【川崎市宮前区ボランティアグループ「すずの会」】

昔はよくいた「地域の世話好きおばさん」のようなスタンスで、地域の主婦が中心となり、介護に関する相談の受付けや、送迎サービスなどを実施しています。

小目標2 ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくりをすすめます。

地域のさまざまな人たちが福祉保健活動の担い手となるよう、ボランティア募集や人材育成を充実させていきます。また、ボランティアなどの地域福祉保健活動に参加しやすくするため、活動団体や内容の情報をより手軽に得られるようにします。

現状と課題

～現状～

- 男性や若い世代のボランティアが不足している。
- 元気な高齢者が地域の福祉保健活動の担い手として十分に活かされていない。

～課題～

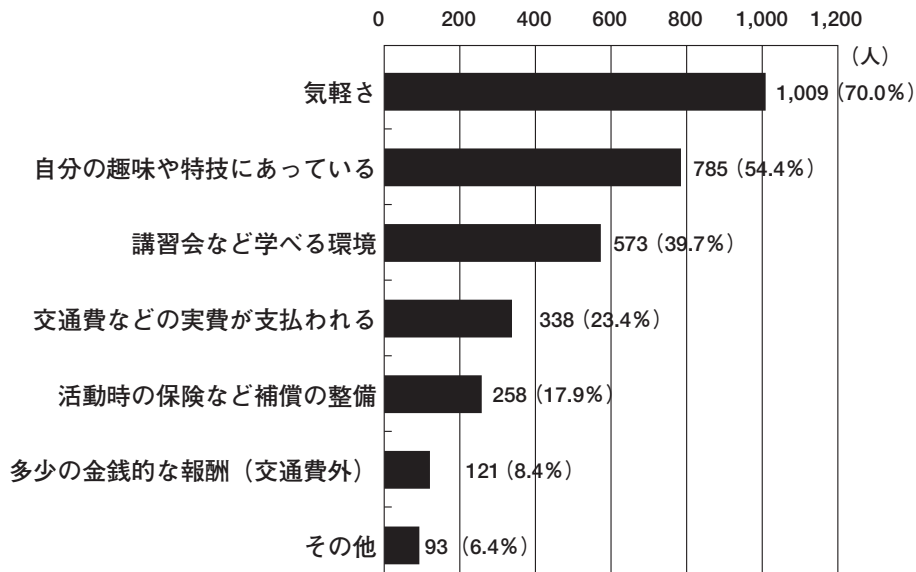
- 性別、年齢を超えて、地域住民がそれぞれの持つ力を活かして、ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくりが必要である。

<区民アンケート調査結果>

地域活動やボランティア活動に積極的に参加するために必要なこととして、「気軽さ」が最も多く、「自分の趣味や特技にあっている」「講習会など学べる環境」と続いています。地域活動に参加したいと思った時、気軽さや自分に合っている、自分を活かせる分野かどうかということが重要となっています。

Q 地域活動やボランティア活動に積極的に参加するために必要なことは何ですか？

(回答数=1,442) 複数回答





## 具体的な取り組み

**1. ボランティアの人材募集、育成のために、区社協や各種福祉施設などで参加意欲を高めるようなプログラムを取り入れた講座や研修を行い、効果的なPRを実施します。**

期待される担い手	内 容
区社協、地域ケアプラザ、区役所、福祉施設（障がい者地域活動ホーム、生活支援センターを中心に）、養護学校、自治会、福祉保健活動団体、NPO法人	○自治会の行事や福祉保健活動団体の行っている地域活動などと連携し、男性や若い世代の興味を引く内容を工夫し、ボランティア講座や研修を開催します。 ○地域で行われる行事などで講座や研修のPRをします。
住民、自治会、老人会など	○講座や研修の開催、PRに協力します。 ○老人会などを通し、元気な高齢者にボランティア活動への参加を呼びかけます。

**2. 福祉保健活動に関する情報を手軽に得られるよう、インターネットを利用した情報提供を行います。**

期待される担い手	内 容
区役所、区社協、生涯学習支援センター	○個別に把握され提供されていた福祉保健活動団体情報を一元化し、インターネットを利用した情報提供を行います。 ○団体の活動内容だけでなく、イベント情報も提供することにより福祉保健活動に参加しやすい環境づくりをすすめます。

## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

### 【東本郷蕎麦打ち同好会の活動】

東本郷地域ケアプラザの蕎麦打ち体験講座(自立高齢者向け生きがい活動支援事業)の参加者が、講座終了後に自主グループである東本郷そば打ち同好会をつくり、福祉施設や地域の高齢者のグループなどへ出前講座を始めています。

### 【おもしろ定年塾】

定年退職された主に男性を対象に、地域でどんな活動ができるのかを紹介し「仲間づくり」をする講座です。鴨居駅周辺まちづくり研究会が企画、運営しています。

### 【長津田地区社協の資源リサイクル運動】

毎週月曜日、自治会館にボランティア10～16名が集まり手工芸品をつくります。ボランティアが新しく集まれる場、連絡できる場として役に立っています。

### 【人材バンク「みどり ひと・まちナビ」の開設】

緑区では、ホームページ上でボランティア活動や自主活動をしている団体等を検索できるホームページを公開し、ボランティア活動の活性化を図る予定です。

平成18年3月にオープン予定です。

### 小目標3 障がい児・者を支援するためのボランティアを育てていきます。

障がいについてボランティアの知識や技術を学べる講座や研修を行い、障がい児・者が安心して支援を受けられるボランティアを増やしていきます。また、研修終了後、実際にボランティア活動が行えるよう環境を整えます。知識や経験を持ったボランティアのリーダーが育ち、自主運営できるよう支援します。

#### 現状と課題

##### ～現状～

- ボランティア活動の希望者はいても、障がい児・者に対する知識や経験を持っている人は少ない。
- 障がいについての知識のない人がボランティアを行う場合、支援を受ける側も不安を感じることもある。
- 障がい児・者の余暇支援活動のボランティアが不足している。

##### ～課題～

- 障がいに関する専門的知識や技術を持ったボランティアの確保や研修機会を増やす必要性がある。
- 継続的に技術、知識の向上を図る研修の仕組みが必要である。

#### 具体的な取り組み

##### 1. 障がいに関する知識を学び、技術を身につける研修を増やします。

期待される担い手	内 容
区役所、区社協、地域ケアプラザ、福祉施設（障がい者地域活動ホーム、生活支援センターを中心に）、養護学校、障がい児・者団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設、学校、団体などの交流を活発にし、どのようなボランティアが必要とされているのか、情報を共有します。</li> <li>○研修を充実させていきます。</li> <li>○実践的な研修ができるよう、受け入れ体制を整えます。</li> </ul>

##### 2. 研修を受けた人たちが実際にボランティア活動ができるような環境を整えます。

期待される担い手	内 容
区役所、区社協、地域ケアプラザ、福祉施設（障がい者地域活動ホーム、生活支援センターを中心に）、養護学校、障がい児・者団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修修了者が実際にボランティアとして活動できる場を提供できるよう福祉施設間の調整をします。</li> </ul>

**3. 障がい児・者の地域生活支援（余暇支援など）のボランティアが主体的にグループの運営に参加できるように支援していきます。**

期待される担い手	内 容
区役所、区社協、地域ケアプラザ、福祉施設（障がい者地域活動ホーム、生活支援センターを中心に）、養護学校、ボランティア、障がい児・者団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループの運営ができるボランティアリーダー育成のための研修を行います。</li> <li>○各ボランティアがグループ化しやすいよう、ボランティア、福祉施設、団体の仲介や情報提供を行います。</li> </ul>

**既に実施されている様々な取り組みの紹介**

**【障がい児余暇支援ボランティア講座】**

夏休みに区社協が実施している障がい児余暇支援活動のボランティアを育成するために、毎年夏休み前に施設職員、障がい児の保護者を講師に開催しています。「障がいってなんだ。障がい児の普段の暮らしは。」といった基本的研修をしています。

**【精神保健福祉ボランティア講座】**

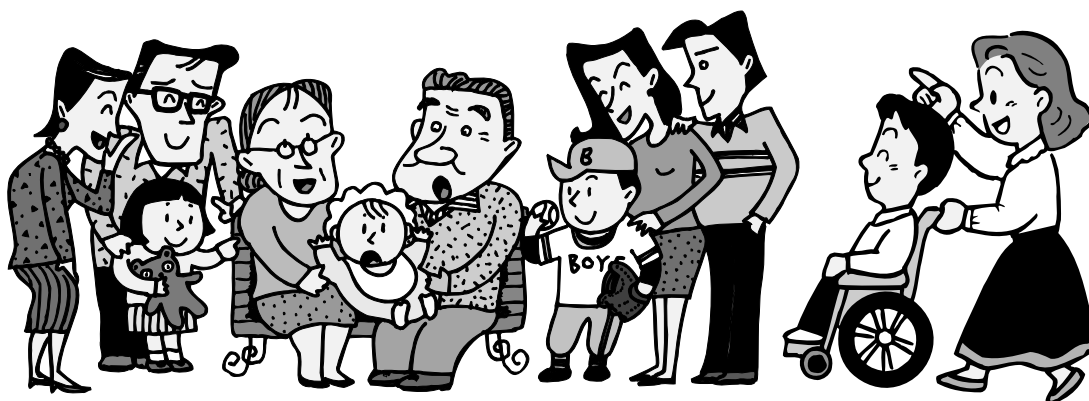
緑区役所（福祉保健センター）では、心の病について悩んでいる方を援助するボランティア育成のための講座を体験実習を含めたカリキュラムで実施しています。講座終了者のうち希望者は、精神障がい者をサポートするボランティアグループ「稲穂の会」に加わり、ボランティア活動を実践しています。

**【竹の子会】**

主に知的障がいのあるメンバーが、親による自主運営により、横浜国立大等の学生や主婦ボランティアの支援を得て、社会人として充実した生活ができるよう、余暇を利用して活動しています。竹山地区社協の事業としても位置づけられ地域の応援を受けてすすめられています。

**【グループ「ひろ」の活動】**

東本郷地区では、地区の民生委員・児童委員が中心となり、障がいのある児童の放課後の見守りを行っています。



## 小目標 4 思いやりのある人を育てる地域をつくります。

地域の誰もがお互いに支えあうことができるよう、障がい児・者、子育て中の人、子ども、高齢者などに優しい気持ちで接することができる福祉文化をつくります。

### 現状と課題

#### ～現状～

- 地域に福祉文化が根付いていないため、お互いが福祉保健活動の担い手であるという意識が薄い。
- 福祉教育が不足している。

#### ～課題～

- 地域に福祉文化を根付かせるための福祉教育の充実や助け合いの実践の必要がある。

### 具体的な取り組み

#### 1. 学校における福祉教育を地域の人や福祉施設などの協力を得て充実させていきます。

期待される担い手	内 容
学校、区社協、地区社協、自治会、福祉保健活動団体（民生委員・児童委員、保健活動推進員、食生活等改善推進員など）、子ども会、福祉施設、NPO法人、社会福祉法人などの事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校での福祉教育活動などに、地域で福祉保健活動をしている人が継続して参加できるよう取り組みます。</li> <li>○子ども達が地域の活動に参加できる機会を増やしていきます。</li> <li>○地域の主任児童委員などを窓口にして、人材をアピールしていきます。</li> <li>○地域の福祉活動の紹介や体験学習の機会を提供していきます。（例えば、地域で活動している人が学校での出前講座を実施したり、生徒が地域の活動に参加するなど。）</li> </ul>

#### 2. 学校、家庭、地域が連携して地域福祉保健活動を活性化していきます。

期待される担い手	内 容
学校、住民、自治会、福祉保健活動団体、区役所など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭・地域と学校が地域福祉保健に関する教育や行事を継続していけるよう連携を図ります。</li> </ul>

### 3. 地域ぐるみで、福祉保健活動が活発に行われる地域をつくっていきます。

期待される担い手	内 容
区役所、区社協、地区社協、自治会、福祉保健活動団体、企業、商店、事業者など	○地域活動に企業、商店、事業者なども協力し、地域ぐるみで協働して、「福祉文化」を根付かせるようにします。 ○地域の福祉祭りなどの行事に企業や商店の協力を要請します。

## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

### 【中学生をリハビリ教室のボランティア参加へ】

東本郷地区リハビリ教室「なすびの花の会」では東鴨居中学校の生徒とカレー作りや体育祭、文化祭等で交流を深めています。また、東本郷小学校の生徒と七夕やクリスマス会などで楽しい交流を行い、ボランティア精神を培っています。

### 【中学生のボランティア体験を施設と共に開催】

三保地区社協では、特別養護老人ホーム「慶星閣」の協力を得て、中学生の特別養護老人ホーム体験学習を毎年実施しています。

### 【配食サービスのお手伝い】

鴨居地区社協の配食ボランティアの活動に鴨居中学校の生徒が夏休みに参加。高齢者等のお宅に地区社協のボランティアと一緒に訪ね、お弁当を渡すなどの活動をしています。

### 【緑ヶ丘中学校「ふじ寿が園でのボランティア活動】

中学生が、特別養護老人ホーム「ふじ寿が園」で高齢者の話し相手となるボランティア活動をしています。また、民生委員・児童委員を中心とした地域住民が生徒との「お茶のみサロン」を実施しています。

### 【新治中部地区「町ぐるみ健康づくり事業】

新治中部地区では、地域住民が中心となり、学校、子どもを巻き込んで、子どもの頃から地域に親しむプログラムを通し、町の健康づくりを展開しています。



## 小目標1 身近な「場」を有効活用できるようにします。

住民が身近な場所でより活発に地域活動が行えるよう、公共施設、民間施設を問わず多くの施設の情報を収集・整理し、広く伝えていきます。また、既存施設の有効活用について、利用者のニーズに合わせた柔軟な運用など関係機関で話し合う機会を設けていきます。

### 現状と課題

#### ～現状～

- 公共施設（地区センター・コミュニティハウスなど）や自治会館など利用制限があり、活用しにくい。
- 身近に活動する場所が少なく、あっても利用規則・条件などに制限があり、使い勝手が悪い。
- 地域の小・中学校などの余裕教室を活用させて欲しいという声強い。
- 飲食店などの休憩時間に客席は空いているので、地域に開放してもらえないかという声がある。

#### ～課題～

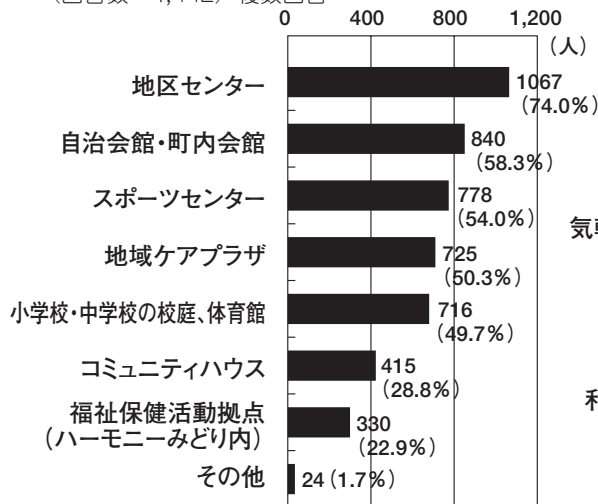
- 身近な場所で地域活動に利用できる場や利用方法に関する情報の整理を行い、利用者のニーズに合わせた柔軟な運用が必要である。

### <区民アンケート調査結果>

地域住民の多くが地区センター、自治会館・町内会館を余暇活動、地域活動のできる場として認識しています。一方、地域施設をより利用しやすい施設にするためには、場そのものの情報や施設の予約方法などの簡素化が必要であるほか、気軽に集まることのできるコミュニティスペースも必要だという意見が多く見られました。

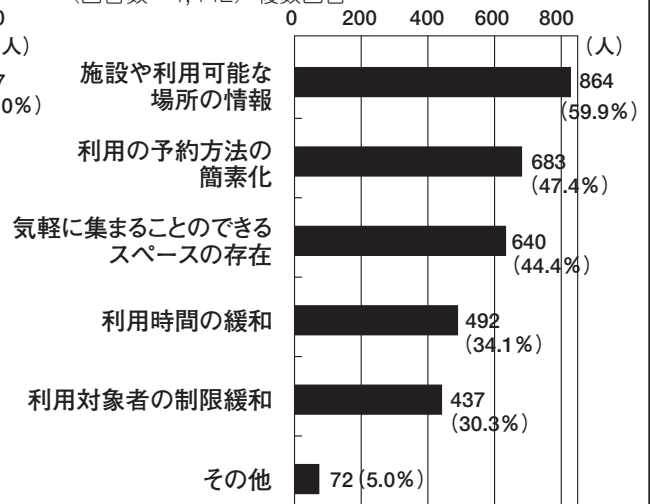
Q 地域で余暇活動、地域活動などで利用できる施設を知っていますか？

(回答数=1,442) 複数回答



Q 地域施設をより使いやすい施設にするために必要なことは何ですか？

(回答数=1,442) 複数回答



## 具体的な取り組み

### 1. 学校、地区センター、地域ケアプラザ、地域作業所などの施設に関して、地域のニーズにあった弾力的な運用を促進します。

期待される担い手	内 容
区役所、施設管理者 福祉保健活動団体など	○施設の開放、利用条件の緩和、また、これらに伴う運営管理、設備改善などの課題に取り組みます。

### 2. 多様な民間施設の有効活用をすすめます。（店舗の空き時間の活用、空きスペースの活用、企業の会議室などの活用）

期待される担い手	内 容
住民、福祉保健活動団体、 商店、企業、区役所、区社協など	○施設のガイドマップづくりと合わせて、地域で利用可能な民間施設（企業の会議室など）の情報収集をします。 ○店舗の空き時間や空きスペースの活用など先進的事例を紹介しながら、店主などに対し、地域への開放に関するアンケート意向調査を行い、活用の可能性を検討します。 ○民間施設利用のための条件整備を支援します（当事者間での使用ルールの作成、事故時の保障制度、受益者負担など）。

### 3. 身近な地域で活動できる場についてのガイドマップを作成します。

期待される担い手	内 容
住民、福祉保健活動団体 など	○情報収集・調査などして施設のガイドマップを作成し情報提供できるようにします。
区役所、区社協	○施設のガイドマップ作成に必要な情報提供や関係機関・団体などへの協力依頼をします。 ○ホームページに施設情報を掲載します。

## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

### 【みどり車いすガイドマップ】

生涯学習団体「作ってみよう！車いすマップの会」が、地域のためにできることを考えて、区内4地区で道路状況などを調査し、車いすの方の利用しやすい施設紹介や、駅周辺の主な施設へのお勧め道路を掲載した車いすマップを手作りで作成しました。

### 【霧が丘地区 店舗の休憩時間の活用】

霧が丘地区の飲食店の休憩時間を利用し、住民同士のふれあいと地域でのボランティア育成を目的に、地域の人材を活用しての学習会を、土曜日の午後で開催しています。

### 【横浜市 学校開放事業】

横浜市では市内の小中学校で、学校の施設を学校教育に支障のない範囲で、子どもの遊び場として、また地域の身近なスポーツレクリエーション及び学習文化活動などの場として、校庭や体育館などを近隣住民、勤務者を対象に開放しています。

### 【霧が丘地区 子育てサロン】

霧が丘地区の民生委員・児童委員が中心となり、地区社協の協力を得て、霧が丘グリーンタウン第一住宅集会所を利用して月1回実施しているもので、子育て中の若い親たちの交流の場を提供するとともに、孤立しがちな親子へ働きかけをしています。育児の相談があれば対応しますが、専門的な内容は専門家にバトンタッチするなどしてサポートしています。

## 小目標2 同じような目的をもった人が集える機会や場を増やします。

既存施設の有効活用やその情報の伝達、新たなプログラムの検討などにより、障がい児・者や高齢者、子育て中の母親、健康づくりを目指す人など、同じような目的をもった人が集える機会や場を増やしていきます。また、青少年の居場所や育成のためのプログラムを整えていきます。

### 現状と課題

#### ～現状～

- 障がい児・者が安心して集える機会や場所が少ない。
- 継続的な健康体操教室のようなもの（高齢者・中高年向き）が身近に欲しい。
- 介護予防活動で集まる機会や場を増やして欲しい。
- 子育て中の母親が、子どもづれで気軽に集まれる場所が少ない。子どもが動きまわったり、気兼ねなく音を出したりできる場所が少ない。
- 青少年などの居場所や育成のためのプログラムが少ない。
- 地域活動団体の活動状況が十分に知られていない。知るための情報が少ない。

#### ～課題～

- 地域活動や公共施設の催しもの、利用に関する情報を効果的な方法で区民に行き渡らせる仕組みづくりが必要である。
- 同じような目的をもった人や同年代などの人が気軽に集まれる場の確保をすすめる必要がある。

### 具体的な取り組み

#### 1. 利用する対象者の目的に合った施設情報の提供を促進します。

期待される担い手	内 容
区役所、区社協、地域ケアプラザ、地域活動団体など	○地域活動や公共施設の催しもの、参加型のプログラムなどの情報を収集・整理し、効果的な情報提供の仕組みづくりをすすめます。

#### 2. 集える機会を増やして活動の活性化につなげます。

期待される担い手	内 容
地域活動団体、福祉保健活動団体、区役所、区社協、地域ケアプラザなど	○障がい児・者、高齢者、青少年、子ども、子育て世代などと地域活動団体などが意見交換しながら活動を展開していきます。 ○青少年や同年代などが気軽に自由に集まれる場づくりを行います。



## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

### 【地域ケアプラザでの子育てサロンの開催】

区内の4地域ケアプラザでは、就園前の乳幼児をもつ親子が自由に集える場として、地域の方々の協力を得ながら、それぞれ工夫を凝らした子育てサロンを開催しています。

- ・キッズオアシスひがぼん（東本郷地域ケアプラザ）
- ・よちよち園（十日市場地域ケアプラザ）
- ・親子サロン「ほっと・るーむ長津田」（長津田地域ケアプラザ）
- ・ちゃ・ちゃ・ちゃ広場（中山地域ケアプラザ）

### 【みどりっこ親子の居場所「はなまる」】

親子が気軽に集え、親子が主役の居場所として区役所が区民と一緒に開設に取り組み、中山町に平成16年に開所しました。公募により決定した子育て支援グループ「グリーンママ」により自主的に企画、運営されています。

### 【青少年の居場所づくり事業】

中山地区センターでは青少年が気軽に立ち寄り、話し合い、雑談、ゲーム、読書が自由にできるスペースを提供しています。必要があれば相談事への対応、助言も行い「そこへ行けばなんとかなる、だれかいる」居場所となっています。

### 【子育て支援者事業】

区役所（緑福祉保健センター）では、区内の地区センター、コミュニティハウスなど5か所で、子育て支援者(相談役として市が委嘱)による子育て相談を週1回実施しています。相談だけでなく、サロンとして未就学児の子育て中の親子が自由に集える場となっています。

### 【鴨居おやじの会】

平成12年6月に鴨居小学校保護者を中心に結成されました。子どもバレーボール教室、地引網体験等の他、連合自治会や各種団体、学校・PTA行事への参加、運営等、地域との関係を深めながら1年を通じて活動しています。少しでも多くの子ども達や地域の方と知り合い、「知っている人が大勢いる安心感」に満ちた「わが街、鴨居」をめざし、楽しみながら活動しています。

### 【きらく会・あひるの会】

「きらく会」・「あひるの会」など、鴨居地区では高齢者同志の仲間づくりやふれあいを目的として、老人クラブ会員を対象にして集まり、井戸端会議や俳句の集いといった談話や趣味を通じての交流をしています。

### 小目標3 世代間のつながりがもてるような機会や場づくりをすすめます。

世代や対象を問わない多様な交流機会を設けていくことで、多くの住民同士が知り合い、誰もが気軽に自由に集まれる機会や場を公共施設内や民間の空き施設を活用するなどして増やしていくよう努めます。

#### 現状と課題

##### ～現状～

- 子育て世代と高齢者世代などが一緒に活動できる機会が少ない。
- 障がい児・者でも気軽に行ける交流の場が少なく、地域との交流の機会が少ない。
- 小さい頃から近所の大人とのつながりがうすい。
- 住民が気軽に自由に集える場が不足している。
- 住民同士が知り合える機会が少ない。
- 住民の世代間のつながりが少ない。

##### ～課題～

- 住民が気軽に立寄れるオープンスペースなどの場所を確保する必要がある。
- 住民同士が互いに顔見知りになるための機会や場の確保が必要である。

#### 具体的な取り組み

1. 地域での行事やグループなどの交流を促進して、つながりのきっかけづくりをしていきます。	
期待される担い手	内 容
区社協、地域ケアプラザ、福祉施設、自治会、地区社協、地域活動団体、学校など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者や子育てサロンなど、サロン同士で交流する機会をつくれます。</li> <li>○年齢の異なる小さい子と大きい子が接する機会（交流会や異年齢合同の行事など）ができるよう互いに呼びかけ、協力していきます。</li> <li>○自治会行事に日ごろ参加しない中学高校生世代を中心に積極的に参加を促します。</li> <li>○目的や活動内容を示して、参加者を募るなど、この指とまれ的に集まって活動する機会をつくれます。</li> <li>○地域作業所など障がい者施設に住民の参加を促し、交流の機会をつくれます。</li> </ul>
区役所、区社協、地域ケアプラザ、地区センターなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>○区民を対象とした事業や教室を通して、交流の機会を増やし、顔見知りとなるきっかけづくりを進めていきます。</li> </ul>

**2. 公共施設などのフリースペースで、誰でも自由に参加できる「場」の活用をすすめます。**

期待される担い手	内 容
住民、地域ケアプラザなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場を提供する側が「声かけ」の仕方や「巻き込んでいく」ための工夫をします。</li> <li>○フリースペースで行うサロンに楽しい、面白いと感じられる企画をします。</li> <li>○公共施設など何か所かでモデル実施をします。</li> </ul>
区役所、区社協	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モデル実施の場を設定するための調整・支援を行います。</li> </ul>

**既に実施されている様々な取り組みの紹介**

**【緑が丘中学校 シャベリ場（山下地区・千草台地区民生委員・児童委員）】**

月1回、部活のない日に不定期に開催しています。午後3時から5時の間に民生委員・児童委員10人位が学校に出向き、子どもたちと一緒に、部活や進路のことなど自由におしゃべりをしています。多い時は、30～40人の参加があり、リピーターも多くいます。

**【高齢者と児童とのふれあい】**

竹山地区の民生委員・児童委員が中心となり、老人給食会の時に、年3回、地元の小学生と昔遊び等の交流を行っています。

**【地域ふれあいフェスティバル】**

新治中部地区では、中山中学校のグラウンドで、年1回、小中学生を中心とした子どもたちと高齢者が一緒に軽いスポーツを楽しんだり、昼食を食べたりして交流しています。

**【中学生と赤ちゃんのふれあい体験】**

緑区役所（福祉保健センター）では、夏休みに中学生が赤ちゃんと実際にふれあい、また、赤ちゃんを育てている親の思いにふれるなど、異世代と交流するふれあい体験を開催し、命の大切さや他者を思いやる心を育成しています。

**【長津田地区のふれあいの会】**

毎月第1金曜日に集会所で障がい、病弱、一人暮らしどんな方でも参加できるプログラム付きのサロンを開催しています。

**【鴨居福祉まつり・竹山福祉まつり】**

地域福祉の活動団体が地域へのPRと住民との交流を目的として福祉まつりを鴨居・竹山両連合自治会や地区社協で実施しています。

**【白山親猿会】**

地域の子どもの教育に興味を持つ父親有志の集まりで、白山地区のイベント（子どもレク、健民祭、餅つき大会、書き初め等）に参加しています。

小目標1 困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにします。

福祉や保健に関する情報をどこで、誰に聞けば入手できるのか周知するなど、必要な情報を誰もが気軽に得られる環境づくりに努めていきます。

現状と課題

～現状～

- 困った時にどこに相談したらよいのか、わからない人が多い。
- 地域ケアプラザが地域の人に知られていない。
- 高齢者や子育て中の人、障がい児・者の家族の問題を身近で相談できる場所が少ない。
- 身近な地域で青少年に関する相談を受ける人が少ない。
- 近隣で相談しやすい関係が築けていない。

～課題～

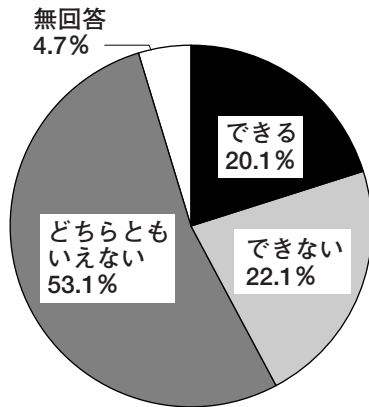
- 身近で気軽に相談できる相談先の体制づくりと効果的なPRが必要である。

<区民アンケート調査結果>

福祉や保健に関して、知りたいと思う情報を、7割以上の方が適切に情報を入手できていない状況です。また、身近な相談先は、家族・親戚や友人、近所の親しい人に多い傾向がみられます。今後は、身近な場での専門的な相談ができることが望まれます。

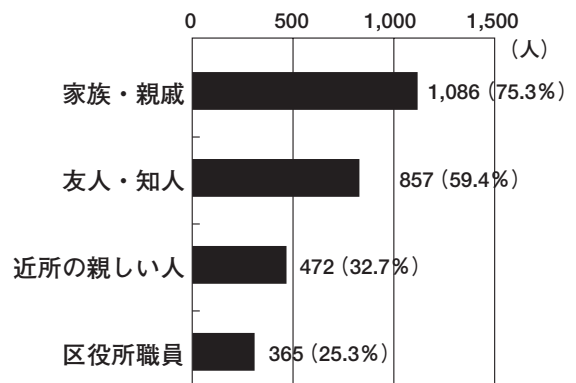
Q 福祉や保健に関して、知りたい情報を手に入れることはできますか？

(回答数=1,442)



Q 福祉や保健に関して、身近な相談先は誰ですか？

(回答数=1,442) 複数回答



(8項目中上位4項目を掲載)

具体的な取り組み

1. 事業者との連携により、相談機関等を示した啓発ポスターを掲示していきます。

期待される担い手	内 容
区役所、区社協、地域ケアプラザ、事業者、商店、福祉保健活動団体	○ポスターを掲示してくれる福祉協力店（仮称）の一般公募を実施します。協力店マーク、シール等を作成・配布していきます。

<b>2. 福祉保健の総合相談窓口としての地域ケアプラザを地域にPRしていきます。</b>	
<b>期待される担い手</b>	<b>内 容</b>
区役所、区社協、地区社協、福祉保健活動団体、NPO法人、地域ケアプラザ	○地域ケアプラザの役割や事業を住民に幅広く周知していきます。
地域ケアプラザ	○ホームページの立ち上げを検討します。

<b>3. 身近な地域の福祉保健関係者の活動をPRしていきます。</b>	
<b>期待される担い手</b>	<b>内 容</b>
区役所、区社協、地区社協、民生委員・児童委員、福祉保健活動団体、NPO法人、地域ケアプラザ	○福祉保健関係者それぞれの活動内容、役割を住民に幅広く周知していきます。

<b>4. 福祉保健相談の受け手をPRしていきます。</b>	
<b>期待される担い手</b>	<b>内 容</b>
区役所、民生委員・児童委員、地域ケアプラザ、区社協、地区社協、住民など	○保健師、ケースワーカーなどの専門性を持つ人材が、地域に出向き、気軽に話ができる関係づくりに努めます。
区役所、民生委員・児童委員、青少年指導員、少年補導員、学校	○民生委員などが情報提供できるように研修を実施します。 ○誰でも青少年に関する相談ができるように多様な場や人づくりを推進します。

## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

### 【地域ケアプラザの広報誌発行】

区内4か所の地域ケアプラザでは、定期的に情報誌を発行し、自治会を通じて地域に回覧するなど、ケアプラザ事業についてPRを行っています。

### 【緑福祉保健センター健康教育】

医師や保健師、栄養士など福祉保健センターの各専門職の職員が講師となり、地域住民に対し各種地域グループの会合など様々な機会を通して、保健衛生知識の普及向上や健康づくりの促進を目的とした多彩な健康教育、地域での相談活動を行っています。

### 【それいけコミュニケーションボード大作戦】

平成17年度からコミュニケーションのバリアフリーをはかる啓発活動としてスタートした全区展開の市社協事業です。知的障がいや自閉症がある方などが来店した際のコミュニケーション方法を分かりやすく解説した「パンフレット」と「コミュニケーションボード」を作成しました。身近なコンビニエンスストアなどに配布するキャンペーンを社協と当事者団体が協力して12月の障がい者週間に行いました。

## 小目標2 福祉・保健に関する情報提供を、より積極的に行っていきます。

地域で福祉活動を行っている団体に関する情報など福祉保健に関する情報が多くの住民に伝わるよう、効果的な情報提供を行っていきます。

### 現状と課題

#### ～現状～

- 区社協、地区社協と地域とのかかわりが弱い。
- 地域の福祉保健活動団体の存在やその活動が地域の人に知られていない。
- 地域の福祉保健活動団体の横のつながりが弱い。
- 障がいに関する情報が少ないため、住民の理解が不足している。
- 福祉保健サービスに関する情報について知らない人が多い。

#### ～課題～

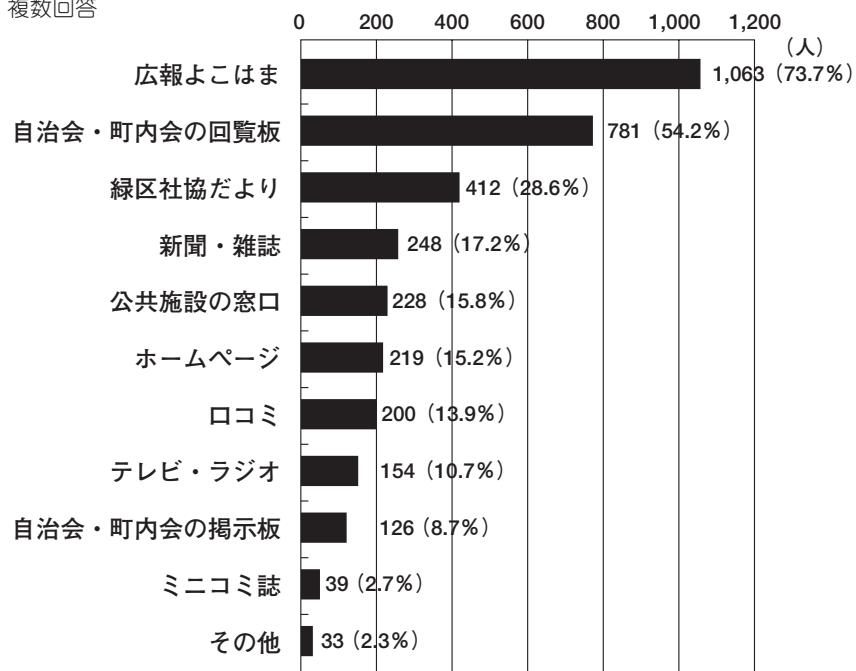
- 福祉保健に関する情報を区民に周知する仕組みづくりが必要である。
- 地域の福祉保健団体間の交流を促進する仕組みづくりが必要である。

### <区民アンケート調査結果>

福祉や保健に関する情報の入手先は、7割近い人が「広報よこはま」を利用しており、効果的な活用が望めます。次いで町内の回覧板から情報を得ている人が多くなっています。

Q 福祉や保健に関する情報をどのような手段で得ることが多いですか？

(回答数=1,442) 複数回答



## 具体的な取り組み

### 1. 個々の団体の活動内容を地域に効果的に広報していきます。

期待される担い手	内 容
地域ケアプラザ、区社協、地区社協、NPO法人、福祉保健活動団体、区役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動内容などの情報を収集・整理し、地域で一元的に情報発信するなど効果的PRを行っています。</li> <li>○発行物の配布先の拡大や、様々なメディア（インターネット・ケーブルテレビ・掲示板など）を活用して周知や募集を行っています。</li> <li>○様々な機会を利用して福祉保健団体のPR、紹介をさらに促していきます（広報紙への掲載、パネル展示など）。</li> </ul>

### 2. 福祉保健活動団体掲載冊子を作成し、身近な地域で利用できるようにします。

期待される担い手	内 容
福祉保健活動団体、区社協、区役所	○福祉保健活動団体を一覧にした冊子の作成を検討します。
地区社協、地域活動団体、自治会、民生委員・児童委員	○地域単位で地域活動団体の情報を掲載した冊子を作成し、ケアプラザ等への配布を検討していきます。

### 3. 社協の活動をわかりやすく周知し、地域とのつながりを深めていきます。

期待される担い手	内 容
区社協、地区社協、自治会、民生委員・児童委員	○社協の目的、役割、組織体制、事業内容について、様々な会議、イベントの際に関係団体・関係者と連携して地域にPRしていきます。

### 4. 住民に身近な場所で福祉保健に関する制度やサービスなどの情報提供をしていきます。

期待される担い手	内 容
区役所、区社協、自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出張説明会や講習会、出前講座などを拡充していきます。</li> <li>○開催の協力、自治会館や学校の会場確保に努めていきます。</li> </ul>

### 5. 地域活動団体同士の交流を活性化し、情報の共有を促進します。

期待される担い手	内 容
住民、地域活動団体	○交流会などの企画・運営に積極的に参加します。
区役所、区社協、地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流会や情報交換会の開催を支援します。</li> <li>○交流活動等の開催について、いろいろな活動団体の参加を促すため、広報などで広くPRします。</li> </ul>

**6. 地域単位で障がいについての講習会や交流の機会を設け、情報を地域に提供し、地域の理解を深めます。**

期待される担い手	内 容
区社協、地区社協、自治会、地域ケアプラザ、障がい者団体、NPO法人、区役所、養護学校など	○障がいに関する理解を深めるため、講習会などを地域で実施していきます。 ○障がい児・者に関する既存の活動を地域に情報提供します。

**既に実施されている様々な取り組みの紹介**

**【タウンニュースで社協事業紹介】**

広報よこはま区版や社協だよりの情報を補完するため社協事業の紹介をタウンニュースに毎月1回掲載して多くの区民へすみやかに伝えています。

**【あなたの街のささえあい（小冊子の発刊）】**

緑区での、高齢者と障がい児・者のための地域活動グループの紹介冊子です。平成15年3月に区社協と区役所合同で作成・発行しました。9つの活動ジャンル別にそして地区順にも分けて見やすくつくりました。

**【子育ておたすけbook】**

子どもと一緒にいける場所、使いやすい施設など「クチコミ情報」「公園情報」「医療機関情報」「トイレ情報」にわけて、使いやすく作成しました。

みどり子育てネットワークという団体が自ら足を運び調べ、編集した当事者の手作りならではの情報が集まっています。

**【生涯学習グループ交流会】**

生涯学習支援センターに登録して活動するグループが年に一度交流会をもち、自分たちの活動を紹介し、他団体と交流する機会をもっています。

**【障がいに関する模擬体験講座】**

区社協は、知的障がいを理解してもらうために模擬体験講座を開催しています。単に知識として理解するのではなく、実際に知的障がいがある障がいを身をもって体験する内容で実施しています。

**【NPO法人の講習会の実施】**

NPO法人「たすけあい・ゆりの木」や「ワーカーズコレクティブくまさん」は、「成年後見制度」「認知症」などをテーマに住民を対象に講習会を開催するなどしながら、福祉保健の情報提供を積極的に行いつつ、自分たちの活動内容をPRしています。



こんなことをやりました。

## 【地区別意見交換会の様子】



グループにわかれ地域の課題や、その解決策などを話し合いました。



各グループごとに出された意見を発表しました。



出された意見は、このように模造紙に貼りながら整理していきました。

### 小目標3 誰もが情報を入手しやすい環境整備をすすめます。

情報機器の扱いに不慣れな方や障がいのある方なども含め、情報が必要な人にタイムリーに情報が伝わるよう、誰もが情報を入手しやすい環境を整備していきます。

#### 現状と課題

##### ～現状～

- パソコンや携帯電話など、情報通信機器の扱いに不慣れな人がいる。
- 目や耳などが不自由な方は、視聴覚に訴える情報をとらえることができない。
- 情報が多過ぎて必要な情報を収集、整理できない。
- 自治会行事や地域活動の情報が十分に伝わっていない。

##### ～課題～

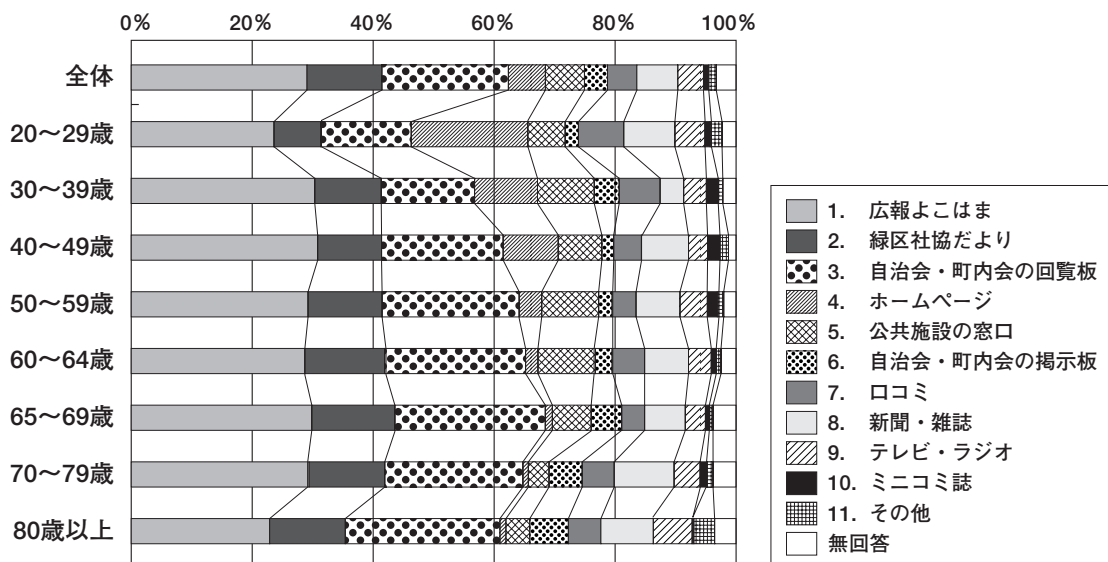
- 必要な情報が必要な人にタイムリーに伝わる仕組みづくりが必要である。

#### <区民アンケート調査結果>

特に、「20～29歳」の世代は、ホームページからの情報入手が他の世代に比べて突出しています。また、年代が上がるにつれて、自治会・町内会の回覧板での情報入手が増加しており、反面、若い世代では回覧板離れの傾向が見られます。

Q 年齢別にみた福祉・保健に関する情報の入手先

(n=1,442)



## 具体的な取り組み

1. 若年層、中年層、高齢層などそれぞれの年齢層に適した工夫を凝らした、多様な方法で情報発信を行っていきます。

期待される担い手	内 容
区役所、区社協、事業者など情報発信者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢層にはケーブルテレビの活用や、大きな活字のパンフレットなどを作成します。</li> <li>○若年層、中年層には新聞やミニコミ誌、インターネットや携帯電話などを活用します。</li> <li>○学校や商店街などに情報誌やチラシ等を設置の協力を依頼します。</li> </ul>

2. 高齢者や障がい者については、相手の理解しやすい方法で情報を提供できるよう心がけます。

期待される担い手	内 容
区役所、社協、地区社協、福祉保健活動団体、事業者、住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>○印刷物などは配布、回覧するだけでなく言葉を添えながら手渡しするなど情報の流れが一方通行にならないようにします。</li> </ul>

## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

### 【視覚障がい者への情報提供】

朗読録音グループみどりは視覚障がい者への情報提供として雑誌をテープに音声録音して提供したり、個人の依頼には対面で朗読したりしています。

### 【障がい者が町に出るためのホームページ「よこはまナビゲート」】

障がい者が街へ出るときの交通方法、便利な店などをインターネット検索方法で調べられる便利なホームページをNPO法人animiが発信しています。



## 小目標4 支援が必要な人の情報を地域単位で把握しやすくしていきます。

地域単位で支援が必要な人の情報を把握し、必要な時に地域でサポートできるよう、必要な情報を把握するための仕組みづくりをすすめます。

### 現状と課題

#### ～現状～

- 地域の中で支援が必要な人の情報がつかめず、地域で十分なサポートができていない。
- 高齢者や障がい児・者の情報が把握しきれておらず、災害時等の十分な対応ができない。
- 個人情報保護の観点から、個人情報を入手しづらくなっている。

#### ～課題～

- 支援が必要な住民に関する情報が、地域単位で把握できる仕組みづくりが必要である。

### 具体的な取り組み

#### 1. 緊急時を含め、支援が必要な人について、個人情報保護に配慮して、地域で情報を把握できるようにしていきます。

期待される担い手	内 容
住民	○世話やきおじさん・おばさんとなり、日常の声かけなどで相談しあえる地域づくりをすすめていきます。
自治会、民生委員・児童委員、家庭防災員、ケアマネージャー	○利用目的を明らかにし、支援が必要な人、ひとり暮らし高齢者など本人承諾を前提とした情報把握を行っていきます。
福祉保健活動団体、居宅介護支援事業者、区役所	○介護サービス利用者やその関係者に日頃から災害時等の対応について、情報提供をしていきます。

#### 2. 地域活動や行事の際に、支援の必要な人の参加を促し情報を把握していきます。

期待される担い手	内 容
自治会、老人会、地区社協、福祉保健活動団体	○配食サービスや敬老会等で、支援が必要な人の情報を把握していきます。

### 3. 個人情報の取り扱いに関する啓発をすすめていきます。

期待される担い手	内 容
区役所、区社協	○福祉・保健に関する関係者や住民を対象とした講習会などの啓発活動を実施していきます。 ○地域での福祉保健活動に伴う個人情報の取り扱いに関するQ & A集づくりをしていきます。

## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

### 【ボランティアみほの在宅援助活動】

月曜日から金曜日まで、家事援助や話し相手など、地域の支えあい活動をするとともに、支援が必要な人の情報把握をしています。

### 【竹山たすけあいの会の在宅援助活動】

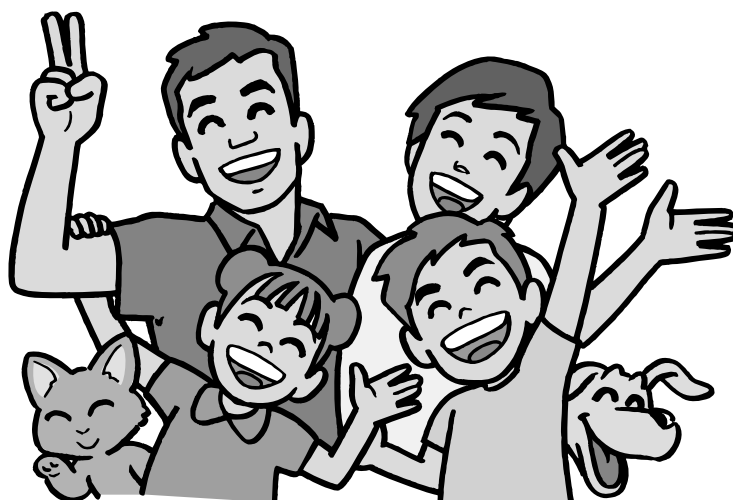
竹山団地で日常生活の支援が必要な人に、家事援助、外出の付添い、話し相手、障がい児の登校の付添いなどを行い、地域での支えあい活動を行っています。相談を気軽に受ける窓口になっており、支援が必要な人の情報把握に努めています。

### 【各地区、見守り事業の実施】

緑区では、各地区で高齢者を対象とした食事会（給食会）やミニデイサービス、配食サービスを実施し、支援が必要な人の情報把握に努めています。

### 【ふれあい・あんしん推進事業（福祉保健センター）】

ひとり暮らしの高齢者等が安心して暮らせるように、地域の民生委員・児童委員等が対象者に定期的に電話をかけたたり、訪問等で安否確認をしています。



## 小目標 1 災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるよう取り組みます。

日頃から隣近所同士で声かけなどを行い、つながりが持てるよう互いに心がけていくとともに、災害時等の緊急時に備え、自治会を中心に災害弱者への対応方法などを話し合っていきます。また、防犯・防災に関する情報提供を行います。

### 現状と課題

#### ～現状～

- 支援の必要な人や自治会に入っていない人の所在や生活実態がわからない。
- プライバシーが重視されるようになり、支援の必要な人の情報が把握しきれていない。
- 隣近所の人との付き合いが薄く、災害・緊急時の安否確認が難しい。
- 防犯・防災に関する情報が迅速に伝わっていない。

#### ～課題～

- 住民同士がお互いの状況を把握できておらず、災害弱者の緊急時の対応や災害時の救援対策、ネットワークの構築が必要である。

### <区民アンケート調査結果>

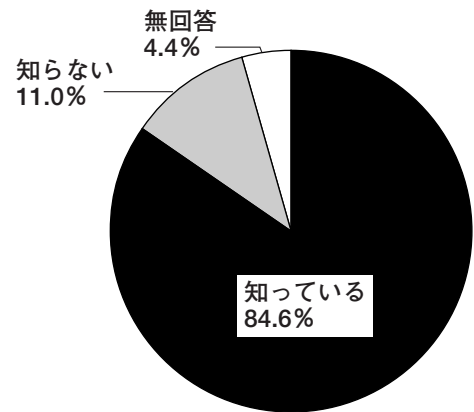
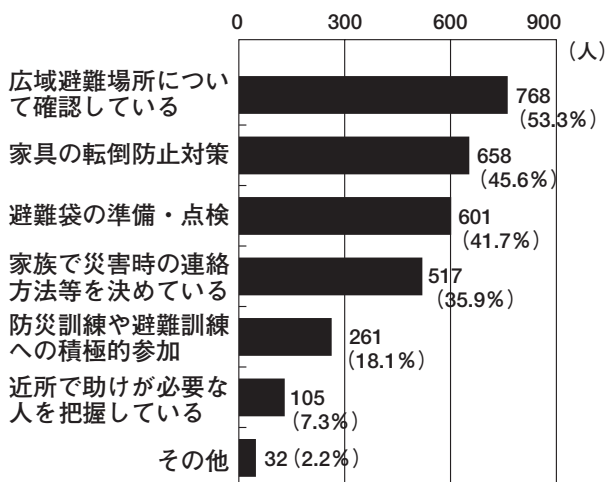
区民の防災に関する配慮をみると、ある程度の対策、準備を行っており、地域防災拠点についても8割以上が認知をしている状況です。このように防災に対する準備や認識は既にできている一方、防災訓練、避難訓練への積極的な参加は少なく、支援の必要な人の把握は十分とはいえない現状のため、災害弱者への対応を含めた地域ぐるみの防災対策が必要となっています。

Q 日ごろ防災に関して配慮していることは何ですか？

(回答数=1,442) 複数回答

Q 市立小学校、中学校が地域防災拠点であることを知っていますか？

(回答数=1,442)



## 具体的な取り組み

### 1. 災害・緊急時に備え、日ごろから支えあいの人間関係づくりをすすめます。

期待される担い手	内 容
住民	○隣近所の人とつながりを持てるよう、日ごろからあいさつや声かけなどを積極的に行います。 ○災害・緊急時には、自分の安全を確保したら、隣近所の人への安否を確認するよう心がけます。
自治会、区役所、防災拠点運営委員など	○災害・緊急時の対応について、日ごろから広報啓発を行います。

### 2. 災害弱者の救援対策を地域全体で考えていきます。

期待される担い手	内 容
障がい者団体、区役所、区社協、民生委員・児童委員など	○障がい児・者向け防災マニュアルを作成します。
住民、自治会、区役所	○地域で災害弱者の救援について話し合いの場を持つようにします。 ○高齢者や障がい児・者に対し、地域防災訓練への参加を促していきます。
福祉施設(グループホーム、障がい者地域作業所、老人ホームなど)、住民、自治会	○災害・緊急時に備え、住民は施設が行う防災訓練などに積極的に参加します。

### 3. 災害時・緊急時、犯罪等の情報を多様な方法で迅速に伝達していきます。

期待される担い手	内 容
自治会	○災害時や緊急時の電話連絡網などの作成を検討します。
自治会、警察、区役所	○犯罪発生や犯行手口等の情報を、回覧板などを活用して伝えていきます。 ○バス停や駅等に犯罪情報を掲示するよう検討していきます。 ○防犯啓発運動を充実させていきます。

### 4. さまざまな工夫をした防犯パトロール活動に取り組みます。

期待される担い手	内 容
自治会、民生委員・児童委員、地区社協、PTA、学校、住民	○防犯のため、地域での様々なかたちでのパトロールを充実していきます(犬の散歩時に腕章をつけるなど)。

## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

#### 【防犯活動】

緑区では、区内62単位自治会(平成17年9月時点)で、地域の自主的な防犯パトロール活動を実施しています。

#### 【防災は地域のかで「霧が丘」夜間宿泊訓練】

霧が丘地区では、夜間の災害が起き、ライフラインが途絶したことを想定して、平成16年から夜間宿泊訓練を実施しています。

## 小目標2 誰もが安心して安全に出かけられるまちづくりをすすめます。

一人ひとりがちょっとした気配りや手伝いを行うことにより、高齢者、障がい児・者、乳幼児を連れた人などが安心して外へ出かけられるようにします。また、個人レベルで解決できない移動を妨げる壁（バリア）を地域全体でなくす取り組みをすすめます。

### 現状と課題

#### ～現状～

- 歩道に植木鉢や商店の商品が置かれている。
- 点字ブロックの上に、自転車が置かれている。
- 団地にエレベーターがない。
- 道路に段差や凸凹がある。
- バスルートがなく、外出しにくい。

#### ～課題～

- 高齢者、障がい児・者、乳幼児を連れた人などが外出する際に、さまざまなソフト面・ハード面の壁(バリア)を地域全体でなくす必要がある。

### 具体的な取り組み

#### 1. 点字ブロックの上に物を置かないなど、誰もが外出しやすいよう、住民同士が配慮をしていきます。

期待される担い手	内 容
地域ケアプラザ、自治会、区社協、民生委員・児童委員、地区社協、福祉保健活動団体、NPO法人、地区社協、学校、区役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○移動に困っている人たちの状況を理解してもらうよう啓発します。</li> <li>○学校の福祉教育や地域の集会などで、バリアフリーには住民のちょっとした配慮が大切なことを周知していきます。</li> </ul>
住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>○点字ブロック・歩道の上に自転車などを置かないようにします。</li> <li>○エレベーターのない団地、車いすの利用できない集会所、駅の階段などでは、住民同士が声をかけあったり、工夫しあったりして利用できるようにしていきます。</li> </ul>



**2. 地域でのボランティアによる送迎活動やミニバス運行など高齢者や障がい児・者などの移動を地域で支えています。**

期待される担い手	内 容
住民、区役所、区社協、地域ケアプラザ <sup>※</sup> 、地区社協、民生委員・児童委員、自治会、事業者	<p>○バスルートのない町に企業、事業者、行政、社協と協力し移動手段を増やしていきます。</p> <p>○高齢者や障がい児・者などの送迎活動を地域のボランティアで実施していきます。</p>

**既に実施されている様々な取り組みの紹介**

**【地域での福祉教育】**

緑区社協では小学校、中学校で障がい者、高齢者が町でどういう時どんなことで困っているかを知るための擬似体験を福祉教育の一環で行っています。できるだけ車いすの人、視覚障がいの当事者に指導してもらっています。

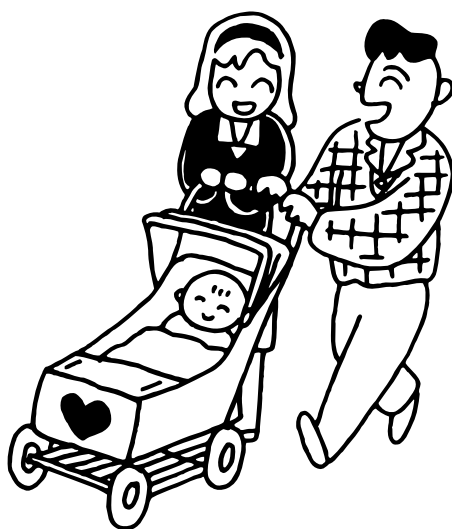
**【東本郷地区で小型バス試走実現！】**

東本郷地区は坂道が多く、高齢化も進んでいます。そこで、東本郷まちづくり協議会が中心となって地区内を巡廻する小型バスの運行について検討してきました。

今回、東本郷まちづくり協議会が小型バス運行についての意見を集めるにあたり、「小型バスの大きさは？」、「バスの騒音は？」、「小型バスが通るとどうなるんだろう？」など地域の方々の疑問に答えるため、東本郷まちづくり協議会及び東本郷地区連合自治会と緑区、都市計画局、交通局との協働により小型バスの試走が実現しました。

**【長津田地区社協の送迎活動】**

高齢者、身体障がい者などを対象に地区社協が所有しているハンディキャブや運転ボランティアの自家用車を使って、病院、福祉施設などへの外出支援活動を行っています。



### 小目標3 誰もが心豊かで、より健やかに生活できるようにしていきます。

だれもが、心身ともにより健康になり、充実した生活を送ることができるよう子どもの頃から、こころもからだも大切にすることを心がけます。

#### 現状と課題

##### ～現状～

- 介護に至らないような予防的な取り組みができていない。
- 小さい頃からの健康に配慮した取り組みが少ない。
- 食事も含めて、不規則な生活をしている人が多い。
- 子どもが外で遊ぶことが少なくなった。
- 子どもが安全に遊べる場所が少ない。
- 外出できない閉じこもりがちな高齢者がいる。
- 中途障がい者等のリハビリをできるところが少ない。

##### ～課題～

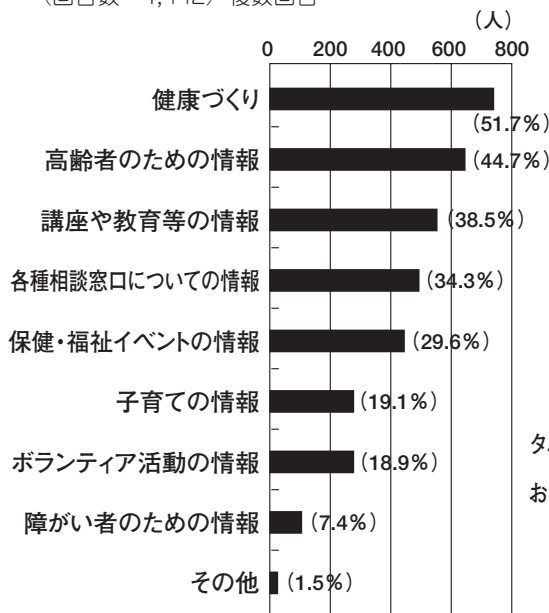
- 誰もが生きがいをもっていきいきと活動するために、健康づくりや健康維持に取り組む必要がある。

#### <区民アンケート調査結果>

福祉保健に関する情報で、区民の関心が最も高いものは、“健康”に関する情報となっています。また、健康への配慮としては、食生活、適度な運動などに気をつけている人が多くなっています。

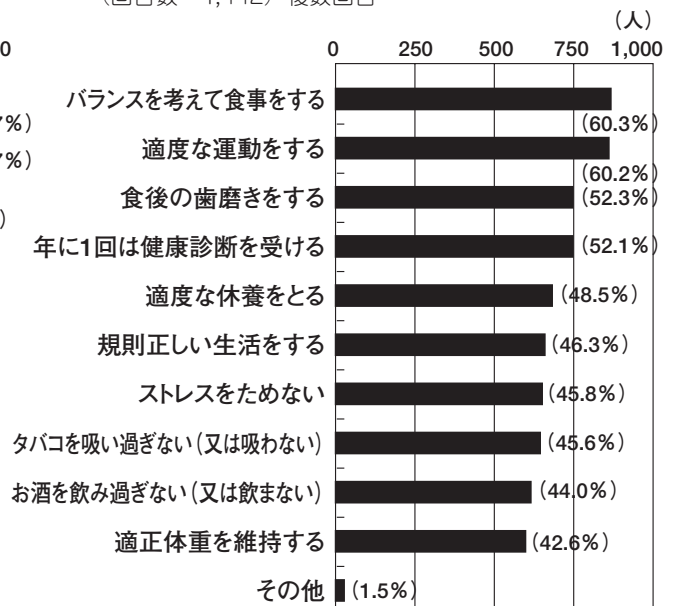
Q 知りたいと思う福祉・保健に関する情報は何ですか？

(回答数=1,442) 複数回答



Q 日頃から健康のために心がけていることは何ですか？

(回答数=1,442) 複数回答



## 具体的な取り組み

### 1. 子どもの頃からの健康づくりをすすめます。

期待される担い手	内 容
区役所、スポーツセンター、区社協、地域ケアプラザ、学校、保健活動推進員、食生活等改善推進員、体育指導委員、スポーツインストラクターなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもや親に健康の大切さについて周知し、実践できるよう支援します。</li> <li>○育児支援の中で、子どもの健康のために生活リズム、食事、体を動かすこと（外遊び）について啓発していきます。</li> <li>○食育、体力づくりのプログラムを地域の協力を得て実施します。</li> <li>○喫煙防止対策として、環境づくりを推進していくと共に学校・地域と連携して子どもへの喫煙防止教育を進めます。</li> <li>○アルコールや薬物の心身に与える影響を子どもが正しく理解し、自分のからだを守る行動が取れるよう地域と協力して啓発していきます。</li> </ul>

### 2. 地域で自主的な健康づくり活動を、各種保健団体と協力して広げていきます。

期待される担い手	内 容
区役所、スポーツセンター、保健活動推進員、食生活等改善推進員、体育指導委員、スポーツインストラクターなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町ぐるみ健康づくり教室を中心とした、地域での自主的な活動を進めていきます。</li> <li>○健康的な食生活や運動習慣を身につけるきっかけ作りとして、地域での自主的な健康講座などの取り組みを支援します。</li> <li>○健康づくりに必要な知識や技術の提供を積極的に行います。</li> </ul>

### 3. 地域で介護予防活動の取り組みを充実していきます。

期待される担い手	内 容
区役所、地域ケアプラザ、居宅介護支援事業者（ケアマネージャー）、スポーツセンター、保健活動推進員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○転倒骨折予防事業の効果的な展開に取り組みます。</li> <li>○介護予防出前講座の拡大、主体的に予防活動に取り組めるよう介護予防活動の普及、啓発、きっかけづくりをしていきます。</li> <li>○地域での自主的な介護予防の活動（健康体操などのサークル）を支援していきます。</li> </ul>



## 既に実施されている様々な取り組みの紹介

### 【思いやり、健康づくりの日】

区民の意識向上をはかり、生涯にわたる健康づくりの促進のため、毎月1日を「思いやり、健康づくりの日」として、区役所での各種検診や健康チェック、相談、ウォーキング、体操を保健活動推進員や食生活等改善推進員（ヘルスマイト）など様々な団体の協力を得て実施しています。

### 【町ぐるみ健康づくり教室】

長津田、鴨居、新治中部地区では、地域住民が主体となり、健康チェックをしながら、健康体操、体力測定、料理教室、ウォーキングなどさまざまな内容で健康づくり教室を月1回、継続して実施しています。

### 【鴨居あるこう会】

鴨居地区では、平成8年から鴨居かえで会が中心となり、歩くことを通して仲間とのふれあいと健康づくりを目的に毎月第3木曜日に開催しています。

### 【地区健康講座】

各地区では、保健活動推進員などが中心となり、身近な地域で健康づくりに取り組めるよう、生活習慣病予防などの健康講座や体操教室を開催しています。

### 【市民の健康づくり】

食生活等改善推進員（ヘルスマイト）は、地域の健康づくりを推進していくために、地域で妊婦さんや男性のための料理講座等を実施しています。

### 【世代を超えた健康づくりの普及】

緑区ヘルスマイトは、幼児、学童、高校生、成人、高齢者等いろいろな年代に向けて、豊かな健康づくりの普及への取り組みをしています。

### 【介護予防出前講座】

福祉保健センターでは、地域の会食会や老人会などに出向き、保健師など専門職が、介護予防についての講座を行っています。

### 【転倒骨折予防教室】

区内4地域ケアプラザでは、介護予防の取り組みとして、転倒骨折予防教室を7～8回1コースで展開しています。教室では、食事や、歯の健康なども含めた健康講座と参加者の体力レベルにあわせ、毎回健康体操を取り入れて実施しています。また、教室終了後の自主活動に向けての支援をしています。

# こんなことをやりました。

## 【緑区民まつりでのアンケート調査の様子 1】

平成17年10月30日に開催された「緑区民まつり」会場にお越しいただいた方にアンケートのご協力をお願いしました。その他無作為抽出で20歳以上の3,000人の方に同内容のアンケート調査を実施し、合計1,442人から回答をいただきました。

282件にのぼる自由記載欄の意見の中から一部を掲載しました。



地域でのつながりが大変重要だと思います。できるだけ具体的に色々な活動への参加、呼びかけをお願いします。また、各種ボランティア活動への呼びかけもお願いします。

60歳代 男性

行政がやっている、やらされているというのではだめ。地域の人々が違和感なく自然に取り組みなくてはいけない。

30歳代 男性

活動に期待しています。

よりよい町になるようがんばって下さい。

20歳代 女性

困ったとき、必要に迫られたとき、初めて相談窓口についての情報などを知りたいと思います。日頃、慌ただしい生活の中で過ごしていると忘れてしまうものです。日頃から関心もてるような機会、場があるといいですね。

40歳代 女性



地域住民が支えあって共に生きていくことが大切と思う。そのための方法を考えていくことではないか。

70歳代 女性

\*アンケート調査は策定委員を中心に実施し、保健活動推進員さんのご協力をいただきました。